

(19)



JAPANESE PATENT OFFICE

PATENT ABSTRACTS OF JAPAN

(11) Publication number: 11127796 A

(43) Date of publication of application: 18.05.99

(51) Int. Cl

A23K 1/10

A23K 1/18

(21) Application number: 09297133

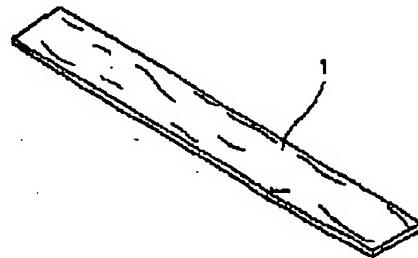
(71) Applicant: PETTSURROUTE:KK

(22) Date of filing: 29.10.97

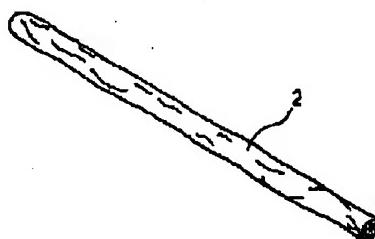
(72) Inventor: HAYASHI SABURO
MINAMINO SADANAKA

(54) GUM FOR DOG

(a)



(b)



COPYRIGHT: (C)1999,JPO

(19)日本国特許庁 (JP)

(12) 公開特許公報 (A)

(11)特許出願公開番号

特開平11-127796

(43)公開日 平成11年(1999)-5月18日

(51)Int.Cl.⁶

A 23 K 1/10
1/18

識別記号

F I

A 23 K 1/10
1/18

Z
A

審査請求 未請求 請求項の数2 OL (全3頁)

(21)出願番号 特願平9-297133

(22)出願日 平成9年(1997)10月29日

(71)出願人 591230620

株式会社ペツツルート
大阪府東大阪市金物町2番3号

(72)発明者 林 三郎

東大阪市稻田本町1丁目19番2号

(72)発明者 南野 貞仲

名張市緑が丘西250番地

(74)代理人 弁理士 鎌田 文二 (外2名)

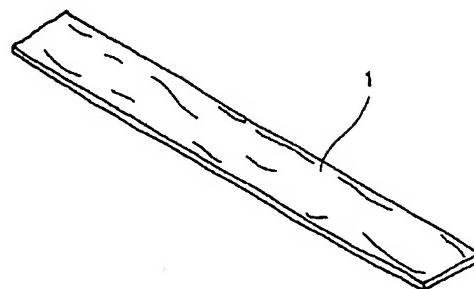
(54)【発明の名称】 犬用ガム

(57)【要約】

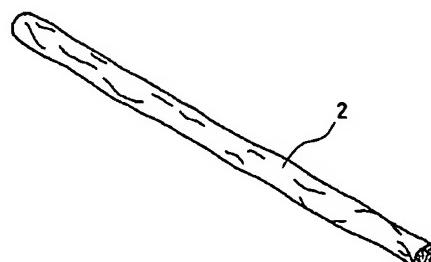
【課題】 うまいに溢れ、容易に製造可能な犬用ガムを提供すること。

【解決手段】 挽き潰した牛皮と畜肉とを5:5乃至8:2の比率で混ぜ合わせ、この混合物を成型し乾燥して犬用ガムを構成する。畜肉に含まれる動物性たんぱく質や脂肪分により、十分なうまいが付与されるので、濃厚な味に慣れた愛犬でも食べやすい。前記混合比率から牛皮を十分に含み、ガムとしての固さを損なわない。畜肉を牛皮とともにミキサー等で混ぜ合わせるだけでよいので、製造が容易で、作業性の向上を図ることができるのである。

(a)



(b)



BEST AVAILABLE COPY

【特許請求の範囲】

【請求項1】 挽き潰した牛皮と畜肉とを5：5乃至8：2の比率で混ぜ合わせ、この混合物を成型して乾燥した犬用ガム。

【請求項2】 前記畜肉が、鶏肉である請求項1に記載の犬用ガム。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、味付けされた犬用のガムに関するものである。

【0002】

【従来の技術および発明が解決しようとする課題】犬用のガムは、食事が比較的柔らかいものになりやすい愛犬の、噛む力を衰えないようにするスナックとして広く普及しており、一般に、機械で挽き潰した牛皮を、押し出し機等で引き延ばして成型した後、所要時間乾燥して製造される。

【0003】しかしながら、牛皮のみから製造したガムは、味が淡白でうまみに乏しいため、特に、濃厚な味に慣れた愛犬にとっては興味が薄いという問題があった。

【0004】一方、ささ身などの鶏肉を巻いて味付けした犬用ガムも知られているが、鶏肉の巻き付けを手作業で行っているのが現状であるため、製造に手間と時間がかかり、作業性が悪いという問題がある。

【0005】そこで、この発明の課題は、うまみに溢れ、しかも、容易に製造可能な犬用ガムを提供することにある。

【0006】

【課題を解決するための手段】こうした課題を解決するため、この発明では、挽き潰した牛皮と畜肉とを5：5乃至8：2の比率で混ぜ合わせ、この混合物を成型して乾燥した犬用ガムを提供したのである。

【0007】この犬用ガムは、畜肉に含まれる動物性たんぱく質や脂肪分により、十分なうまみが付与されるので、濃厚な味に慣れた愛犬でも食べやすいだけでなく、前記混合比率から牛皮も十分に含んでおり、ガムとしての固さを損なわない。また、畜肉を牛皮とともにミキサー等で混ぜ合わせるだけでよいので、製造が容易で、作業性の向上を図ることができる。

【0008】

【発明の実施の形態】図1(a)および図1(b)に示す犬用ガム1、2は、それぞれ牛皮と鶏肉とを原料とし

ており、図2に示す工程を経て製造したものである。

【0009】このガムの製造に際しては、まず、挽き皮機で細かく挽き潰した牛皮と、肉練り機で練り潰した鶏肉とを、牛皮：畜肉の混合比率にして7：3の割合でミキサーにより混ぜ合わせる。

【0010】ついで、この混合物を押出機で扁平に引き延ばして成型し、乾燥機内に搬送して、摂氏約65度で72時間程度乾燥させる。

【0011】その後、さらに別の乾燥機内に搬送して、温風を吹きつけながら摂氏約90度で72時間程度の乾燥を行う。そして、完全に固化させた後、裁断機で、図示のように、板状または棒状など、適当な形状、大きさに切りわけて成形し、袋に詰めて製品として完成させる。

【0012】この犬用ガム1、2は、畜肉に含まれる動物性たんぱく質や脂肪分により、十分なうまみが付与されるので、濃厚な味に慣れた愛犬でも食べやすいだけでなく、前記混合比率から牛皮も十分に含んでおり、ガムとしての固さを損なわない。また、畜肉を牛皮とともにミキサー等で混ぜ合わせるだけでよいので、製造が容易で、作業性の向上を図ることができる。

【0013】なお、牛皮と混合する材料は、鶏肉以外の畜肉であってもよく、複数種類の畜肉を使用してもよい。また、牛皮と畜肉との混合比率を5：5乃至8：2の範囲に設定すると、犬の噛む力に耐えうる十分な固さを備えた好適なものとなる。

【0014】

【発明の効果】以上説明したように、この発明に係る犬用ガムは、牛皮の他に、動物性たんぱく質や脂肪分が豊富な畜肉を原料にしているので、うまみに溢れ、濃厚な味に慣れた愛犬にとっても食べやすく、また、ガムとしての固さも十分に備えたものである。

【0015】さらに、前記練り潰した畜肉を牛皮とともに混ぜ合わせればよいので、容易に製造することができ、作業性の向上とともに、製造コストを押さえることも可能となる。

【図面の簡単な説明】

【図1】(a)は、板状に成形されたこの発明に係る犬用ガムの斜視図、(b)は、棒状に成形された同斜視図

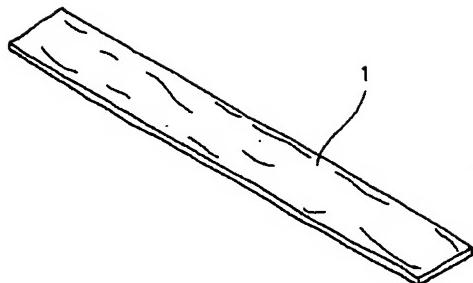
【図2】同上の犬用ガムの製造工程を示す概略図

【符号の説明】

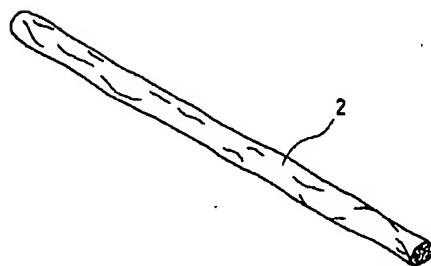
1、2 この発明に係る犬用ガム

【図1】

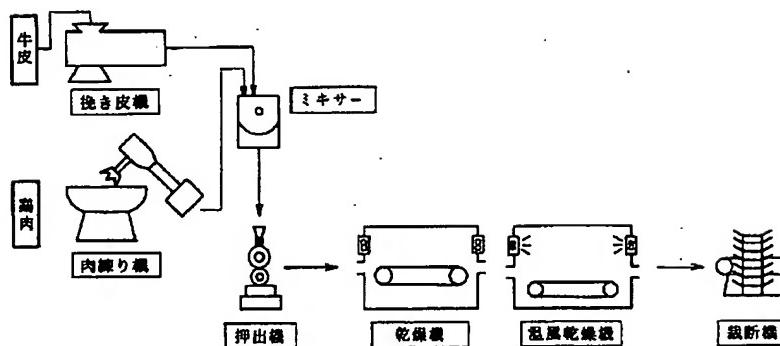
(a)



(b)



【図2】



BEST AVAILABLE COPY